

1. 活動名

幼稚園の森で見つけた腐葉土を使って植物を育てよう

2. 子どもの姿と読み取り

- ・園内にあるこどもの森には、落ち葉や枯草、雑草が多量にあり、冬の間に森一面を落ち葉が覆い尽くしている。葉っぱを踏んで歩いていると、場所によって固かったり柔らかかったりすることに気付き、落ち葉が積み重なった場所で、落ち葉をめくって、落ち葉が少しずつ細かくなって土になっているのを不思議そうに見ていた。落ち葉や枝などが地面に落ち、ミズなどによって土になっていることを知ると、「柔らかいね」「ちょっとあったかい」「山の匂いがする」と、時間をかけて熟成してきた腐葉土に、不思議さや面白さに興味をもち始めている。
- ・自分の育ててみたい夏野菜(ミニトマト、キュウリ、ナス、ピーマン、オクラ)を植木鉢で育てるにあたり、栽培するには土が必要ということから、園内で畑に使える土を探す中で、「土じゃないけど葉っぱが土みたいになってるところがあった!」という子どもの主張から、土として使えるかも知れないことに気付き、みんなで森に行くことになった。森には腐葉土という土壌改良にふさわしい土があることを知ると、「畑にいい土を見つけよう!」と、落ち葉の上をゆっくり歩いてフワフワと感じたところの葉っぱを掻き分け、「葉っぱも入ってるけど、これもいい土やな!」と、バケツや鍋、ポリ袋、トロッコ、スコップ、お玉など、身近にあるものを使って夢中で落ち葉を集め入れる姿が見られる。
- ・みんなで見つけた腐葉土を一ヶ所に集めたが、全員分には満たなかったため、野菜を栽培するために必要な土と特性を調べ、腐葉土の他に、培養土・赤玉・燐炭を混ぜ合わせ、シートをかけてひと休みさせている途中で、「ちょっと見てこよう」と待ちきれない様子で見に行った子どもから、「なんか土がフワフワになってる」「フカフカや」と、土が変化してきたことに、自分たちが見つけて作った土は、特別ないい土であることに喜びをもつ姿が見られる。また、やわらかい土を使うとよい根がつくことも知り、特別な土で野菜を育てることに期待をもつ姿が見られる。
- ・毎日世話をしながら、水やりをしないと育たないこと、晴れの日には畑の土が乾いている様子や、雨が降ると水やりをしなくてもよいこと、こまめに雑草を引くことなどに気付いてきた。匂いや触感、つるの長さ、収穫数を数えるなど、直接体験を通して感じたことを言葉に出して表現できるようになってきている。
- ・育て方を図鑑やiPadで調べたりして世話がができるようになるとともに、植物は自分たちと同じように生命をもっていることや生長していることに気付き始めている。
- ・野菜の種類によっては、成長の進捗状態が異なるが、毎日世話を欠かさない子どもは実りと収穫が早く、友達の野菜の生長にも目を向けるようになり、友達の野菜にまで水やりをしたり、枯れてきている状況を友達に知らせたりする姿が見られた。一方で、苗を植えた当初は進んで水やりを行っていたが、長く続かなかったり、水の量が少なすぎたりする子どももいる。関心が薄れかけていた子どもも、友達の刺激を受け急に水やりを始め、収穫に期待をもつようになっている。自ら苗を選んで育てることで、作ることの大変さや命の存在を認識し、自主性や意欲につながってきている。
- ・園での取り組みの様子を保護者に伝え、自然物と関わる面白さや不思議さを、親子でも共有できるようにしてきたことで、収穫した野菜をお弁当に入れていることが多くなり、子どもたちは昼食をとっても楽しみにしている。家族での会話や調理法を嬉しそうに話す姿から、夏休み中は引き続き家庭で栽培することにすると、子どもも保護者も喜び、意欲的に取り組もうとする姿が見られる。
- ・夏休み明け、収穫後の枯れた枝や葉、土を持ち寄り、「次、何植える?」「ミズ見つけたから入れとくわ」「土が固くなるから混ぜやな」と、土づくりから苗植え、水やり、収穫と、日々大切に育てることで、野菜の育つ過程を知ることができ、収穫できたという成功体験を味わうことで達成感から意欲へとつながっていることが感じられる。

・附属中学校とのプロジェクト研究では、種からコキアを育てるには、夏野菜の苗を植えた時のように土が必要だという声が上がリ、再び土づくりの経験を活かしたやわらかい土づくりが始まった。季節の移ろいと共に、小さな種から植えたコキアは、緑、赤、黄、茶へと変化していく様子を間近で見ながら、11月には8本の筈が完成し、自分たちの特別な筈として大切に扱われるようになってきている。

・1月末、これまで再利用してきた土を土壌改良し種イモを植えたことで、湿った環境ではなく、水を与えすぎると腐りやすくなることを知る。1年間を通し、生長の様子を見たり、世話をしたり、収穫したり、友達と一緒に栽培することの喜びを味わいながら、じゃがいもの発芽に期待を寄せている姿が見られる。

3. 目指す子どもの姿

- 育てたい野菜を決め、栽培に興味や関心をもって大切に育てるようになる。
- 生長への想いや願いをもって友達と共通の目的に向かって協力するようになる
- 毎日の世話を通して、成長を間近で見たり生命の不思議さに触れたりしながら、自分たちの手で育てる喜びを得ながら、自然や人とのつながりを大切にしようという気持ちももてるようになる

4. 活動の目標(ねらい)

- 野菜の世話を通して、野菜に興味・関心をもち収穫の喜びを味わう(知識及び技能の基礎)
- 友達と一緒に準備をしたり、どうしたらうまく育つかを考えたりしながら、友達と一緒に活動する良さを感じる
(思考力・判断力・表現力等の基礎)
- 見通しをもった活動を通して、感動する心や不思議に思う気持ち、命あるものすべてを大切にすることができる
(学びに向かう力・人間性等)

5. 評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
① 身近な植物に関心をもって関わろうとしている。	① 育てたい植物を選んだり決めたりしている。	① 育てている植物に合った世話の仕方があることに気付いている。
② 育てている野菜に合った世話の仕方があることに気付いている。	② 友達と一緒に活動する中で、話す、聞く、伝え合うことで、人と関わりをもつ楽しさを知る。	② 植物の育つ場所、変化や成長の様子を知り、関心をもつことができる。
③ 植物の変化や成長の様子に関心をもちながら、繰り返し世話をしている。	③ 友達と自分の世話の仕方を比べながら、自分の野菜に適した世話の仕方をしている。	③ 植物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。
④ 植物が育つためには、土、水、日光が必要であることについて知る。	④ 育ててきた植物との関わりを振り返り、自分なりの方法で表現している。	④ 土を再利用することで次の命に繋げることができることを知る。

6. 環境構成

○活動内容の設定理由

子どもたちは、身近な環境にある様々なものに対してかかわろうとし、その嬉しさを友達や保育者に伝えたい気持ちでいっぱいである。そこで共感してもらえることによって、子どもたちの心は安定し、自分から進んで発見を楽しんだり、考えたりして生活に取り入れようとしている。また、学内や園内の森をはじめ、地域には四季により様々な姿を見せる木や花や実など、発見と挑戦がいっぱいできる自然環境に恵まれていて、子どもたちの感性を刺激するだけでなく、豊かな創造力で遊び道具や探求する題材となっている。

一人一人が、実らせたい、収穫したいという思いや願いをもって活動に取り組み、植物との関わりを深めていくことができるように、一人一鉢の苗や、グループで種を栽培する活動に取り組み、成長、変化、生命とつながりなど多様な気付きをもてるようにしたい。また、収穫まで育てることができた自分のよさに気付き、自然に親しみ、自然のことを知り、生命を大切にできる実体験をすることが大切だと考える。子どもが生活する空間の中で、身近に関わることができる場所に環境を整え、見ること、触れること、感じることを十分に経験できるようにしていきたい。何かを創造していくときに必要な発想力や想像力は実体験や感動から生まれていくものであると捉え、植物など自然と日常的に触れ合う体験をし、豊かな感性を育ててほしいと考えている。

○教材について

腐葉土とは土壌をより良い状態へ改善してくれる改良用土であり、枯れ落ちた落ち葉をミミズなどの虫や微生物が長時間かけて分解することで、葉が崩れて土のように変化した堆肥の一種となる。子どもたちが日常遊んでいる砂や土とは違う、園内の森で見つけた腐葉土に興味をもち始めていることをきっかけに、ふかふかの土づくりを行うことで、時間をかけ毎日耕し、豊かな土壌となり、植物の命をつなげることができることにつなげていきたい。

腐葉土は、土壌に「通気性」「保肥性」「保水性」が備わることで、植物が育ちやすくなるため、子どもたちの見つけた「土」で、育てやすい植物を栽培し、自分で育て、収穫し、食べるという一連の流れを体験をすることで、食材がどのようにできるかだけでなく、地産地消にもつながっていくと考える。

1つのことにじっくり向き合い、観る、育てる、やり遂げるという活動は、自然との関わりで大切なことであると共に、小学校生活科への接続という意味で取り入れていきたい活動である。

○展開の工夫

土づくり、日々の生長や変化や実りが、子どもたちにとって生命の営みを実感させるものと捉え、継続的に世話を繰り返し、収穫したい想いを実現させるために、子どもたちの気付きを取り上げながら、どうしてなのか、何をすればよいかをクラスみんなで共有しながら子どもたちと考えることで、様々な植物への興味や関心を高めていくようにする。また、自然の理解や人と自然のつながりに目を向けて考えていくことで、日常生活の中に活かしていくことができると考える。

7. ESDとの関連

○活動を通して養いたい ESD の視点

多様性 土の種類、生長の仕方には多様性があることを知る

相互性 土、水、太陽が関わり合っていることに気付く

連携性 友達と伝え合い協力しながら、腐葉土を探して運び、肥料と混ぜて土づくりに取り組む

責任制 水やり、雑草ひき、わき芽をして、生長見守りながら、責任をもって取り組む

○活動を通して主に育てたい ESD の資質能力

多面的・総合的に考える力 …… 身近にある園内の森の廃棄物も見方によっては資源になると捉えることができる
野菜の成長の様子に関心をもち、生命の大切さやそれぞれの野菜の成長の違いに気づき大切にしようとする心が育つ

つながりを尊重する態度 …… 植物は生命をもっていることや成長していること、植物と自分との関わりに関心をもちつことことができる。

進んで参加する態度 …… 責任をもって継続的に世話をすることができる。

友達と協力してものごとを進める力が育つ。

グループや集団での活動を通して協調性を養い主体的に活動していく力を身につける。

○ESD で育てたい価値観

・人は自然の一部であることを知る

・食物が育った土、水、太陽に目を向け、自然環境や生命の大切さを感じ取る心

・野菜の生育条件に着目し、友達と比べたり、自分なりの考えをもって野菜に合った世話を試したりしながら、野菜の成長の様子や違いについて考える

○貢献できる SDGs

目標2【飢餓をゼロに】

目標4【教育】

目標11【持続可能な都市】

目標15【陸上資源】

目標17【実施手段】

7.展開

予想される子どもの活動	保育者の環境構成と援助
<p>○子どもの森に腐葉土が作られていることを知る</p> <p>○腐葉土を取る</p> <p>○腐葉土を使って土をつくる</p> <p>○野菜の苗を選んで一人一鉢植える</p> <p>○自分のネームプレートや切り株に「たいようぐみののうえん」と書き、立て札をつくる</p> <p>○水やりや雑草をひき、わき芽取り、日当たりの良い場所に植木鉢を移動しながら生長を見る</p>	<p>●砂・土・腐葉土の違いに触れながら、腐葉土植物を育てる際に土づくりの手助けをしてくれることを知らせる。</p> <p>●スコップとバケツに限らず、腐葉土を「取るもの」と、取った腐葉土を「入れる物」を探すよう声を掛け、自分で選んで準備することで、腐葉土を集めたくようになるようにする。</p> <p>●栽培に適した土である腐葉土、培養土、赤玉、燐炭の特性を知らせ、自分たちで、ふかふかの土をつくる楽しさを感じられるようにする。</p> <p>●土づくりをする中で、身近な砂や土との違いや不思議さに気づき、疑問が湧いてきた時に、自分でも調べられるように、図鑑や iPadなどを準備しておく。</p> <p>●野菜の苗を見せながら、形・色・匂いなど、特徴に興味をもち、育ててみたい気持ちになるようにする。</p> <p>●世話をする中で、水やりの大切さに気づかせる声かけをする。</p>

○芽が出たり生長したりすることに関心を持ち、気付いたことを話す

○野菜を収穫をする

○自分の育てた野菜の絵を描く(画用紙2~3枚をつなぐ)

○枯れた枝や土をひとまとめにし、新たな土づくりをする

○コキアや種イモを植える

- 植物とかかわることで、生長の変化に気づいた子どもの姿を捉え、その気づきに共感し、友達にも知らせる。
- 野菜の苗を複数にすることで、自分以外の友達の苗にも目が向くようにする。
- 一人一人の苗に合った支柱を子どもと一緒に立てる
- 鳥害被害に遭わないように、ネットで覆った囲いを部屋の前につくり、その中で栽培ができるようにする。
- 生長の変化に気づいた子どもの姿を捉え、その気づきに共感し、それを他児にも伝えていく。
- 子どもの様子や発言を丁寧に聞き、思いや疑問に寄り添った声かけをしたり、問い返したりする。
- 植木鉢をテラスに置くことで、園生活の中で自然と野菜に関わることができるようになる。
- 個々の様子を見ながら、水やりや雑草取りを欠かさずどうなるか個別の声かけをすることで、世話をする友姿に目を向けながら、野菜の成長に対する思いや願いをもって考えることができるようにする。
- 自分が世話を工夫したことで、植物が大きく成長したことに気づきながら収穫できるようにする。
- 収穫時期は違うが、全員が収穫し、植物を育てることのよさを実感し、これからも継続的に植物と関われるようにする。
- 描きたい長さに紙をつなげ、自分で決めた墨の濃さで、伸び伸びと表現する。墨で描いた後、絵を見ながら色を塗ることが自分で決められるようにする。
- 収穫後の土・枝・葉が再利用できることを知らせるために、収穫した状態で鉢を持ち寄るようにする。



「こどものもり」で、ふようどをさがそう (げんきなはっぱのつち)

ばいようど (はなや やさいをつくるつち)

あかだま(みずをしっかりとすいこむ)

くんたん(つちが やわらかく ふかふかになる)

〈土づくり〉

- ・全員のシャベルとバケツがない!
自分で入れ物を探し、こどもの森に行く
- ・枯れ葉を踏んで、フワッと したところの土が腐葉土だと知る
- ・腐葉土、培養土、赤玉、燻炭の特性を知る
- ・土をひとやすみさせてから 混ぜると、やわらかくなっていることに気付く





〈水やりをする〉

- ・毎朝、水やりをし、芽が出るのを楽しみに待つ
- ・土が湿っている時は、「今はおなかいっぱいだから水はいらない」雨が降っている時は、「野菜と一緒に水のやりすぎはよくないから おやすみ」と、気付きクラスで共通のルールとなる

